

教科名 数学科

1. 各学年学習到達目標

<第1学年学習到達目標>

「数と式」

数の概念を負の数まで拡張し、理解を深める。また、文字を用いることの意義及び方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を処理できるようにする。

「図形」

平面図形や空間図形についての観察、操作、実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を養う。

「関数」

具体的な事象を調べることにより、比例・反比例の見方、考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し考察する基礎を養う。

「資料の活用」

コンピューターや表・グラフを活用して、資料の傾向を読み取る。

<第2学年学習到達目標>

「数と式」

文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばすとともに、連立二元一次方程式について理解し、それを用いる能力を養う。

「図形」

基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験などから理解を深めるとともに、証明することを通して筋道を立てて考え、表現する能力を養う。

「関数」

具体的な事象を調べることから、一次関数を理解し、数量関係を見だし表現する能力を養う。また確率の考え方の基礎を育てる。

「資料の活用」

確率の意味と必要性を理解し、具体的に確率を求める。
箱ひげ図の意味や有用性理解し、資料の特徴を読み取る。

<第3学年学習到達目標>

「数と式」

数の平方根について理解し、数の概念をさらに広げる。また、目的に応じた計算をしたり、式を変形したりする能力を高める。2次方程式を3つの方法を用いて自在に解ける。

「図形」

図形の相似や三平方の定理について、筋道を立てて理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を養う。

「関数」

具体的な事象を調べることから、二乗に比例する関数を理解する。また、グラフに習熟し、さまざまな課題を既習事項と結びつけて考える態度を養う。

「資料の活用」

標本調査の意味と必要性を理解し、具体的に標本調査を行い、母集団の傾向を理解する。

2. 数学的活動について

各領域の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、各学年で数学的活動に取り組む機会を設けます。

	<1学年>	<第2・3学年>
ア	既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見いだす活動	既習の数学を基にして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動
イ	日常生活で数学を利用する活動	日常生活や社会で数学を利用する活動
ウ	数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合う活動	数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う

3. 評価について

数学科では次の3つの観点について評価をしています。

知識・技能

数量や図形などの原理や法則を正しく理解、知識としているかを評価します。
計算や証明において、自分で考え、その考えを自分の言葉で表現できる技能が身につく、処理できているかを単元テストや定期テスト等をもとに評価します。

思考・判断・表現

じっくり考えて、課題にどのように迫っていくのが大切です。
具体的には文章題や応用問題への考え方等を評価します、授業での発言やレポート課題、単元テスト、定期テスト等から評価しています。

主体的に学習に取り組む態度

授業での取り組み方や発言内容、単元テスト、レポート課題等も考慮し、粘り強く学びに向かおうとする様子や問題解決の過程の振り返りができているかを評価します。

4. 評定

3つの観点と評定の主なパターン

5…AAA	等
4…AAB	等
3…BBB	等
2…BCC	等
1…CCC	